

第4回（仮称）矢吹町複合施設整備検討委員会

平成29年5月22日（月）午後6時～

矢吹町文化センター小ホール

1.開会

2.委員長挨拶

委員長：今回で3回目。4つの施設を複合するというので、一つ一つをきちんと中身を検討していく。前回は図書館、今回は公民館機能ということ。最終的にはひとつの物として、利用者が集まり、単独の施設では生まれない活動、交流、施設の使いまわしなど、そうした可能性のある施設をどう造っていくのか。町民の方々に魅力を感じていただけるような施設にしていくという重責を担っていることではありますが、忌憚のない意見をお願いしたい。

事務局：議事録の承認について、これまでは、次回の検討委員会で委員皆様から承認をいただき、その後ホームページ等で公表していましたが、迅速に住民にお知らせするためにも、毎回、議事録署名人を指名し、町で作成した議事録を署名人に確認していただき、承認いただければすぐに公表することとしたい。この内容について、ご協議いただきたい。

（協議の結果、事務局案で今後の議事録公表を進めることとする）

委員：議事録署名人について、事務局から案があれば提示いただきたい。

事務局：名簿順で、〇〇委員、〇〇委員をお願いしたい。

委員：ご異議ないでしょうか

委員：異議なし

委員：異議なしとの意見がありましたので、議事録署名人については、〇〇委員、〇〇委員をお願いします。

3.議事

(1) これまでの経過報告

- ・第2回検討委員会議事録について
 - ・第3回検討委員会視察報告について
- （事務局から資料に基づき説明）

(2) これまでの意見の整理と課題の抽出

委員：検討委員会で審議されていることが知られていない。町民の方から公民館事業が心配と聞いている。
特に生涯学習の現状活動に対して不安視されている。
今までの事業が出来るのか。
高齢者の方は横文字に馴染めないケースがあるため公民館が交流センターと横文字になるとパニックになっているところである。

公民館事業は今まで行っていた事業+αの内容が必要ではないか。
不安視されていることを払拭出来る環境整備、それにマッチングした施設造りも必要ではないか。
現在の公民館のメリット、デメリットについて皆さんも理解できているのではと考えるが、耐震問題、階段の問題などをどう解決していくか。高齢者などは具体的に言わないと理解ができない。

委員 : ありがとうございます。
ご指摘がより解りやすい形で伝える努力を我々や事務局としても幅広く理解を得ながら計画が進められていけるようにしていきたい。
公民館については、この後実態を知るための報告を頂き、それを基にご意見を頂きたい。まちづくり、施設造りは、ゴロでいう2つの「ら」、
・「あら」をきちんと洗い出す。あらは、問題点を改善してより良い形にしていく
・「たから」をみんなで確認する。たからは享受しているもの、大事にしていることをどういう風に引き継いでいくか。
実態の把握をして、期待に沿った形の施設像を作っていければと思う。
その他、ご意見ございますか。
ないようなので次に。

(3) 現在の中央公民館・矢吹公民館について

- ・調査報告
- ・矢吹町公民館事業について
(事務局から説明)

委員 : Is 値が 0.28 ということで、耐震補強もしくは建替えるということで、今回は複合施設として、新たに建設しようということですが、関連して何か質問は。

委員 : 耐震数値が下回っている中央公民館について、アンケートでも補強等を実施しないのかとの意見もあった。

危険な状態の中で、町民が日々利用したり、職員の方が日々その中で勤める事に対しての手当てはないのか。やるのか、やらないのか。複合施設が出来るまでどのような対応を行っていくのか。多くの住民の方が疑問だと思う。

事務局 : 現在、中央公民館を耐震補強する計画は現時点では無い。
東日本大震災の地震に対して充分耐えた施設であるが、安全かどうかと言うと、数値的には危険な状態ではありますが、代わりに施設が無い為、危険だから使用できないと言えない状況。また、老朽化が進み、取壊しが決まっている建物について、多額の事業費をかけてまで耐震補強をするべきではないと判断。
大変難しい問題ではありますが、現在では補強計画は無い。

- 委員 : ありがとうございます。
鉄筋コンクリートの建物なので、レンガや石積みのように一気に潰れる可能性は低いと思う。しかし、上から物が落ちてくるなど状況によって速やかに避難すると言う取り組みはどうでしょうか。
- 事務局 : 今年度は、避難訓練を実施したい。
具体的な計画は決まっていない。
人が集まる講座を行った際、協力を頂きながら、職員の訓練も兼ねて安全に移動するための避難訓練を今年度中に開催したい。
- 委員 : 中央公民館で行っている事業が今度の複合施設でも引き続き行われていくのかという不安。
職員の形態・地区公民館のあり方など、変更になるような計画があれば、話して頂ければ不安も解消される。
- 委員 : どういう内容の施設にしていくかと言うのは、この検討委員会で積極的にご意見頂いて、皆さんのプランを頂き、利用者の声も含めそれぞれのあり方もご意見頂きたい。
その意見をまとめ、踏まえた施設を創るのを目標にしていきたい。
- 委員 : 各部屋が 100%を超える利用状況にあります、今度の施設で少しでも解消できればと思う。
地区公民館の職員の方も働きやすい環境にあれば良いと思う。
町の文化を考えると、体育協会・矢吹町文化協会など、任意団体も中央公民館を拠点に活動しているので、そうした活動がしていけるような方向性のある施設になれば。
アンケートにもありましたが、お茶を行っている方のご意見も聞いて頂ければ、お茶会も出来る和室の設計になっていくのかと思う。
今は無いが、中央公民館は当初、住民の意見を聞いて、浴室もあった。そう言った自由な発想で創った、思いのこもった中央公民館が無くなることは寂しい思いがあるのが実状。それも踏まえ、今の中央公民館より良い物が出来たという思いが出来るような施設になって欲しい。
- 委員 : どうもありがとうございました。
この委員会等で町民の方々のご意見を集めて、中身を組み立てることとなりますが、組み立てる立場がこうしたことを把握したうえで、これから作業をしていくということを今示されている。なお、足りないところがあれば意見を出していただきたい。
利用状況について、和室等の利用率が 100%以上となっていますが、一日中使っているということになっていますが、データの出し方を運営実態に合わせて検討していく必要がある。足し算でこうした施設が必要となると、施設の

面積が膨らみ、建設費、維持費も大変になっていく。使用のニーズをしっかりと受け止め、どういう風に運営を含めてまとめていくのかが検討の課題と
なっていく。

その他ございますか。

委員 : ことぶき大学は、中央公民館に 40 年お世話になり、40 年間勤める講師先生も
いますが、トイレ・階段どこも酷いです。冬は凍ってしまってトイレが使えま
せん。2 階の女子トイレは流れません。壁が落ちてくる。会議室も会議室では
無くなっている感じがする。

中央公民館は愛着があつて、あそこに無くなってしまうと、みんな無くなって
しまいそうで不安なので、私は皆さんに説得しているが、三神・中畑からは遠
い、そういう問題ではない。

西側の復興もあるが、あそこに中央公民館が出来ないと決まった時点で、廊
下・調理室も 42・43 年経つとこうなってしまうのかと。

車椅子の人も一緒に行つて話を聞いたり、杖をついても行けるエレベーターが
あつたらいい。足が悪くなつたら、今の会場では月一回の公演も聞きに行けな
い状態。とにかく、早急に気分よくやっていただけるには、大ホールのことも
考えなければならない。沢山考えなくちゃいけないことがある。

遠い、近いの問題では無い。良い方向に説得できるような資料を出して欲しい。

委員 : どうもありがとうございました。

委員 : アンケートの活動状況で、舞踊関係の方達の意見も聞いて欲しい。大ホール
は、今度の複合施設はどのようにしていくのかチェックしておく、後々クレ
ームにならないと思う。

委員 : アンケート結果を住民の方に公表する予定はあるのか。アンケートを基にし
て、問題点を検討して、町民に対する公表の仕方は考えているのか。

事務局 : アンケートは公表していく。

委員 : 公表して、意見があれば追加して欲しい。

事務局 : 昨年 12 月利用者説明会で、111 団体にアンケートを配り、28 団体から集まっ
た。その 28 団体だけではなく、アンケート当時は意見が無かった団体も、その
後に意見を持った方もいると思うので、意見の集約を図っていきたい。

委員 : 文化施設とスポーツ施設は一体で良いのか、皆さんの意見を聞きたい。

スポーツ施設は意外と場所を取るため、文化施設やあらゆる施設を網羅すると
膨大な施設となる為、分けた方が良いのでは。

今後、区分けやコストがテーマになるのでは。

委員 : 本日は一問一答では無く、考えを出して頂き、組み立てて関連付けて議論を
深めて参考意見にして頂く。

- 委員：大ホールの利用率が低い為、可動椅子等を配置して、普段使わないときは間仕切りで小さな部屋とすれば効率的になるのでは。
- 委員：子供囲碁教室で公民館を利用する。和室はとてもいい。しかし、今の子供達にはテーブルがある小さな部屋があると良い。大ホールは必要か。文化センターの活用、中央公民館の大ホールの兼ね合いはどうなのか。
- 委員：公民館を利用する側には大ホールは必要。ことぶき大学は大勢で使うが、文化センターの大ホールでは大き過ぎる。中央公民館の大ホールがちょうどいい。
- 委員：中央公民館大ホールは300名で交流を図るのに丁度良い。大ホールに舞台・ステージを造って欲しいという意見もある。稼働率が悪い。水回りがひどい。手を洗う場所が欲しい。調理室やお茶を沸かすところが分かりすぎる。大ホールは考えて欲しい。
- 委員：公民館の役割は生きがい。町民の生きがいは公民館。文化センターは文化の発表の場であり、公民館とは質が違う。
- 委員：公民館を知らなかったの、そういう実態があるのであれば私の意見は取消します。
- 委員：委員会の役割は、アンケートや意見を検討する委員会では無い。1回目の委員会で確認したのは、複合施設を造る前提で町が連携してくる様々な事に検討・意見を加えてより良いものを造るのであり、ここで何か決議するのでは無い。意見を集めて検討し、具体化して最終的に決めるのは議会であり、町民がそこに関わっていくのであれば、機能や場所などがもっと深められていく必要があると思う。それ考えると、アンケートに役場の方はもっと答えなくては行けないのではないか。これだけのコストで、複合施設や計画を含めると20億と聞きました。補助金が9億、そのほかは起債、町としては借金をして建てる。そこに不安を感じている方々が沢山いるので、現状はこうであるが、町はクリアしていけるという事を説明しなければならない。でないと、町民の方には承諾してもらえないと思う。
- 公民館を利用している方が何人いるか、場所を移っても充分活動できるか、どこから来て頂いているか、調べて答えなければならないと思う。町と町民との間に共通理解が必要ではないでしょうか。
- 今日の役割は、公民館の機能について、とてもいい議論になってきたと思う。公民館を担当している職員の方が比較をして決めるのでは無く、主体的にやりたい事、使いたい事という方がこれだけの方が利用している、サークル活動、自主的な活動が、矢吹町の元気がここに集まっている場所である。
- 場所、建物が変わっても今までより使いやすくなったり、水回りやトイレ、部屋をどのように決めていくか、機能の議論に着目した方が良いのでは。
- 可動式の椅子ですが、大変いいと思うのですが、高齢の方々は階段を昇ってい

くのは大変。今の平らなところに椅子があるから利用しやすい。
機能として考えていく必要があると思うし、一つ一つの機能を詰めていく必要がある。どんなに考えても、100%みんなが納得する機能は難しいとしても皆が納得する案を出していく必要がある。

検討委員会は意見を伝え、町が活かしていく。

あそこに建てるとすればという前提の委員会であって、そこで意見を出していく。アンケートに対してこの委員会が答えるものではないと考える。

委員：複合施設を造る際に盛込む物、落としてはならないもの、皆さんの思いをどう受け止めていくか委員会の役割だと思う。

配慮すべき事は委員会で意見を出して頂きたい。

可動式の椅子など、技術的にどうするかは建築のほうでいろいろ考えるもので、そこで押さえなければいけない所はこの場を出していく。この場で意見が出なくても専門的な立場で行っていくことになるが、活動している人たちのための施設としてこういうことは押さえていかなければならない。

委員：矢吹町の文化祭（あゆり祭）は2カ月間、他市町村は1日、2日で終わってしまう。中央公民館を中心に文化祭を行っているので、そこを考慮して設計して頂きたい。（各団体が中央公民館の各部屋を使って1年間の成果を発表）

委員：その事については、利用状況やヒアリングで意見が出てきていないので、その点はしっかりと押さえて条件に組み入れていきたい。

(4) 意見交換 新しい複合施設のあり方 公民館について

委員：喫茶スペースがとても良い。大正ロマンの館を喫茶スペースとして人集めの場所として実施しているが、将来は、喫茶スペースを複合施設に入れていただき、大正ロマンの館は文化施設、歴史室・展示室になって行けば文化的な町になっていくのではと思う。提案、意見として。

文化施設、歴史室・展示室を望んでいる団体もある。

町としても大事だと思うので複合施設と合わせて、文化施設があっても良いのでは。

委員：自分も独自に視察研修をしてきて感じたことは、公民館の中に図書館がある、図書館の中に公民館があると言う感じを受けた。今度の複合施設も公民館を使いながら図書館を使う、図書館を使いながら公民館を使う感じになるのではないかと思っている。となると、音楽が出来る部屋や大ホールの防音についても考えなくてはいけない。共通して使える所は使わなくてはいけない。子育てや喫茶スペースが入ると、今は図書館も公民館も別々に管理しているが、

それを一括で統括するような運営の仕方もある必要があるのでこうした問題も一緒にやらないと職員の問題とかもあるのでは。

委員長 : 器自体は造ろうと思えばどのようにでも造れるが、それをどのように運営していくか。利用しやすいかたちでどのように運営していくか、利用者の立場に立って議論していく必要がある。

スライドの中で、ロビーの写真がありましたが、これまでも図書館、子育て支援などそれぞれにロビーがあったが、複合施設はそれを組み合わせてスペースをうまく組み合わせることができる。あれも必要、これも必要と足し算するのではなく、一つのスペースをいろんな形で使えるようにしていく。これは大事な方法かなと思う。調理室にしても和室にしても、今まで施設のイメージのままではなく、利用していた人たちの意見を大事にしていくことと同時に、利用していなかった人達、高校生、中学生などのニーズも受けとめながら施設を造っていくことも考えていく必要もある。複合施設の可能性をどう生かしていくか。ちょっとした会議室、図書館でもほしい、公民館でもほしい。となるとそれぞれ作らなくてはならないが、うまく使いまわす、そうした工夫、体制を考えていけるといい。

委員 : とてもすてきな資料を見せていただいた。機能を考えながらも、ときどきこっちも使う、あっちを使うという形でオーバーラップしていくととても面白い建物になると思う。今日の資料でも、事務室のとなりに一時預かりがあるというのは面白い。調理室の隣に和室がある。子育て支援をやっている立場からはとてもほしいスペースである。今の家庭環境では、離乳食も作るのが難しいお母さんもいるので、お母さんと赤ちゃんが遊びに来て離乳食を作る講習会があり、自主的なサークルになって行くと、離乳期が終わったお母さんのサークル活動がほかの部屋でやったりとか、次のステップにつながる場所になると感じた。一つの建物が色々な様子をかもしだしていければいいと思う。岩手県紫波町のオガールのフレキシブルな造りは、あゆり祭のときもいろいろな展示が可能。音がないものはホールで、音は出るものは小さな部屋を使うなど、工夫がされていていいと思う。

委員 : 工夫で色々な活動が生まらせる。こんなこともできる、という発想を促せる施設になって行ければ良いと思う。

宿題として、ホールを造る際は、300席のホールはかなり大きい。300人を集めるのは年に何回かあるかもしれないが、人が少ないのに、大きなところでやると盛り上がり欠けたりするので、実態を踏まえて必要な大きさを何処に定めていくか、年に何回かの最大の人数に合わせてと普段使いでは持て余してしまう。

委員 : 普段使わないときは空いてしまうが、最低でも月に 200 人が集まるとなると、間仕切りして使うとなると、どうなるのかとかいろいろ考えている。毎月 1 回は 180 人ぐらいは集まるときがあるがもったいないとも思っている。

委員 : 時には 300 人ぐらい集まるときにあふれないようにするにはどう工夫すればいいか考えていきたい。今日は決める場ではなく、膨らませる場である。具体的な活動に絡んだいろいろなお話を出していただき感謝します。こうした議論を重ねながら、思いのこもった施設にしていきたいと思う。場所が移ることに関して、いろんな意見がありますが、それぞれの意見が貴重である。補助金、お金の話が出ましたが、公民館は建替えようとする、補助がなく、全額自費になってしまいます。こうしたお金をうまく使いながら、町の財政負担を少なくすることと、奥州街道、大正ロマンの館等関連する施設と連携しながら一帯を活気のある街にしていく。移すからにはそういう形が求められると思う。使いにくくても愛着があるというのは、建築に携わる者からすれば冥利に尽きることである。建替えることになったからには、建替えなければ得られないような中身、施設にしなければならない。

閉会